

調査結果の概要

(1) 乳用牛

ア 飼養戸数・頭数

平成18年2月1日現在（以下「平成18年」という。）の全国の乳用牛の飼養戸数は2万6,600戸で、前年に比べて1,100戸（4.0%）減少した。

飼養頭数は163万6,000頭で、前年に比べて1万9,000頭（1.1%）減少した。

この結果、1戸当たりの平均飼養頭数は、前年より2頭増加して62頭となった。

また、乳用牛の状態別（経産牛及び未經産牛）飼養頭数をみると、経産牛は104万6,000頭、未經産牛は58万9,800頭で、前年に比べてそれぞれ9,000頭（0.9%）、1万100頭（1.7%）減少した。

図1 乳用牛の飼養戸数・頭数の推移

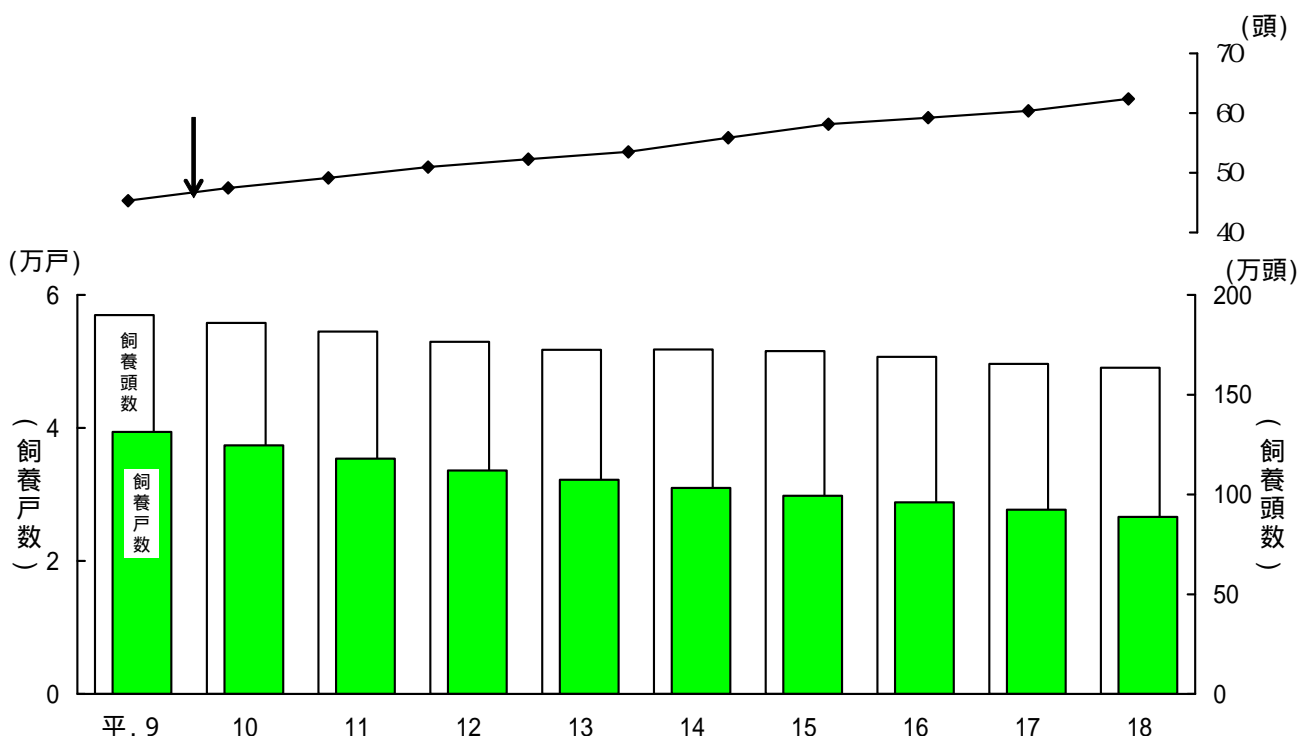


表1 乳用牛の飼養戸数・状態別飼養頭数

区分	飼養戸数	飼 養 頭 数 (千 頭)						1戸当たり飼養頭数
		計	経 産 牛			未經産牛		
			小 計	搾乳牛	乾乳牛			
実数	平. 16	28 800	1 690.0	1 088.0	935.8	152.0	602.6	59
	17	27 700	1 655.0	1 055.0	910.1	144.9	599.9	60
	18	26 600	1 636.0	1 046.0	900.0	146.1	589.8	62
対前年比 (%)	平. 16	96.6	98.3	97.1	97.1	97.4	100.7	-
	17	96.2	97.9	97.0	97.3	95.3	99.6	-
	18	96.0	98.9	99.1	98.9	100.8	98.3	-
構成比 (%)	平. 16	-	100.0	64.4	55.4	9.0	35.7	-
	17	-	100.0	63.7	55.0	8.8	36.2	-
	18	-	100.0	63.9	55.0	8.9	36.1	-

イ 成畜（満2歳以上の牛）頭数規模別飼養戸数・頭数

乳用牛の飼養戸数・頭数を成畜（満2歳以上の牛）頭数規模別（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。以下、飼養頭数規模別飼養戸数・頭数において同じ。）にみると、飼養戸数はすべての階層で減少した。

また、飼養頭数は「100頭以上」の階層で前年に比べて10.4%増加した。

この結果、99頭以下の階層は減少、又は微増であったものの、一戸当たり飼養頭数は増加し、飼養頭数に占める大規模階層の割合が高まっている。

図2 乳用牛の成畜頭数規模別飼養戸数・頭数の割合

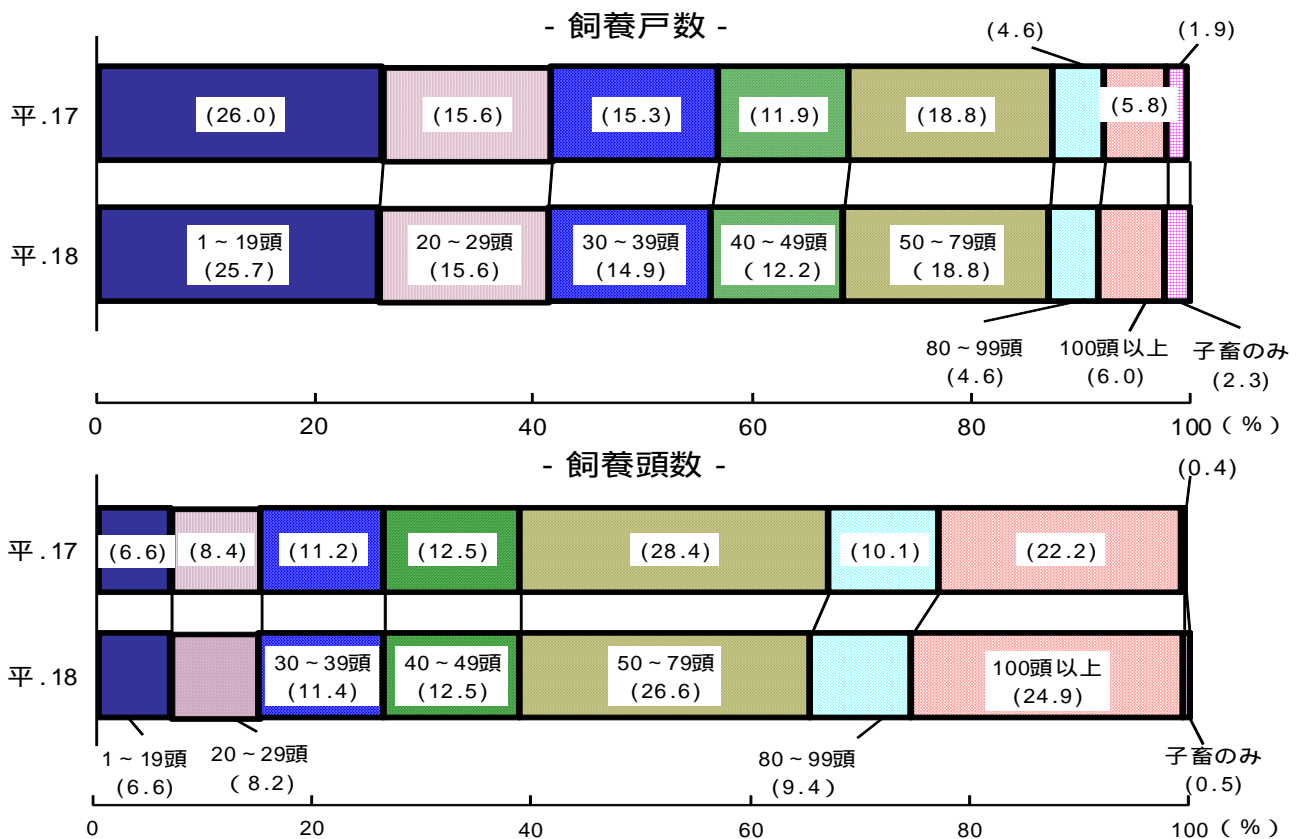


表2 乳用牛の成畜頭数規模別飼養戸数・頭数

区分	計	成畜頭数規模									
		小計	1~19頭	20~29	30~39	40~49	50~79	80~99	100頭以上	子畜のみ	
飼養戸数	平. 17	27 400	26 900	7 130	4 270	4 200	3 270	5 140	1 260	1 590	520
	18	26 300	25 700	6 750	4 110	3 920	3 210	4 940	1 200	1 570	594
対前年比	平. 17	95.8	96.4	96.9	95.7	93.5	96.2	95.0	100.0	101.3	84.1
	18	96.0	95.5	94.7	96.3	93.3	98.2	96.1	95.2	98.7	114.2
飼養頭数	平. 17	1630.0	1623.0	108.2	137.2	182.6	204.1	463.5	164.8	362.6	7.2
	18	1611.0	1603.0	106.3	132.6	184.3	200.6	427.8	151.4	400.4	8.0
対前年比	平. 17	97.9	98.0	102.9	98.3	88.9	94.0	98.2	98.2	104.0	80.9
	18	98.8	98.8	98.2	96.6	100.9	98.3	92.3	91.9	110.4	111.1

ウ 乳用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付面積の状況

全国の乳用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、飼料作物を作付けている戸数は2万2,400戸で、乳用牛飼養者の85.2%となっている。

これを全国農業地域別にみると、北海道、東北及び九州において9割を超える飼養者が飼料作物を作付けている。

図3 乳用牛飼養者の飼料作物作付戸数割合

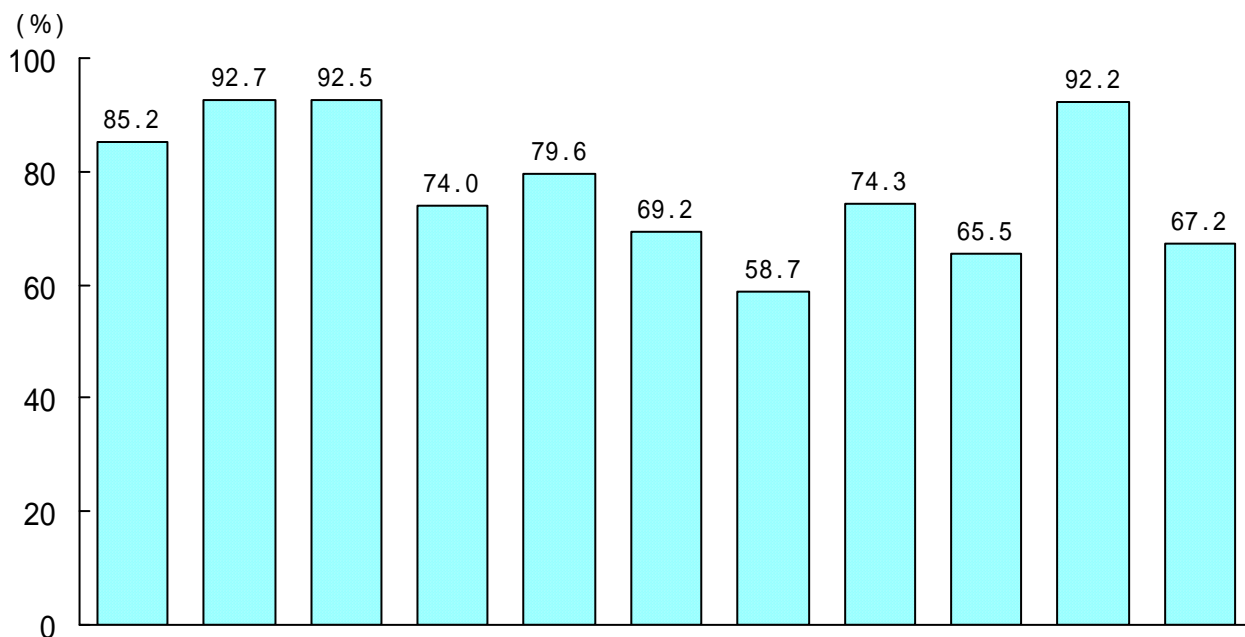


表3 乳用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付面積の状況

区 分	飼養戸数	飼料作物作付戸数	飼料作物作付戸数割合	経営耕地面積	飼料作物作付面積
	戸	戸	%	ha	ha
全 国	26 300	22 400	85.2	527 400	497 900
北 海 道	8 550	7 930	92.7	441 800	420 400
東 北	4 240	3 920	92.5	37 300	33 700
北 陸	574	425	74.0	2 750	2 230
関 東・東 山	5 540	4 410	79.6	18 300	16 700
東 海	1 270	879	69.2	4 190	3 730
近 畿	1 090	640	58.7	1 270	1 020
中 国	1 290	958	74.3	5 170	4 590
四 国	780	511	65.5	1 480	1 330
九 州	2 830	2 610	92.2	14 900	14 100
沖 縄	122	82	67.2	210	210

エ 乳用牛飼養者の放牧飼養の状況

全国の乳用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、放牧飼養を行った戸数（他に委託して行った放牧を除く。）は5,020戸で、乳用牛飼養者の19.1%となっている。

これを農業地域別にみると、北海道では46.5%の飼養者が放牧飼養を行っており、他の地域を大きく上回っている。

図4 乳用牛飼養者の放牧実施戸数割合

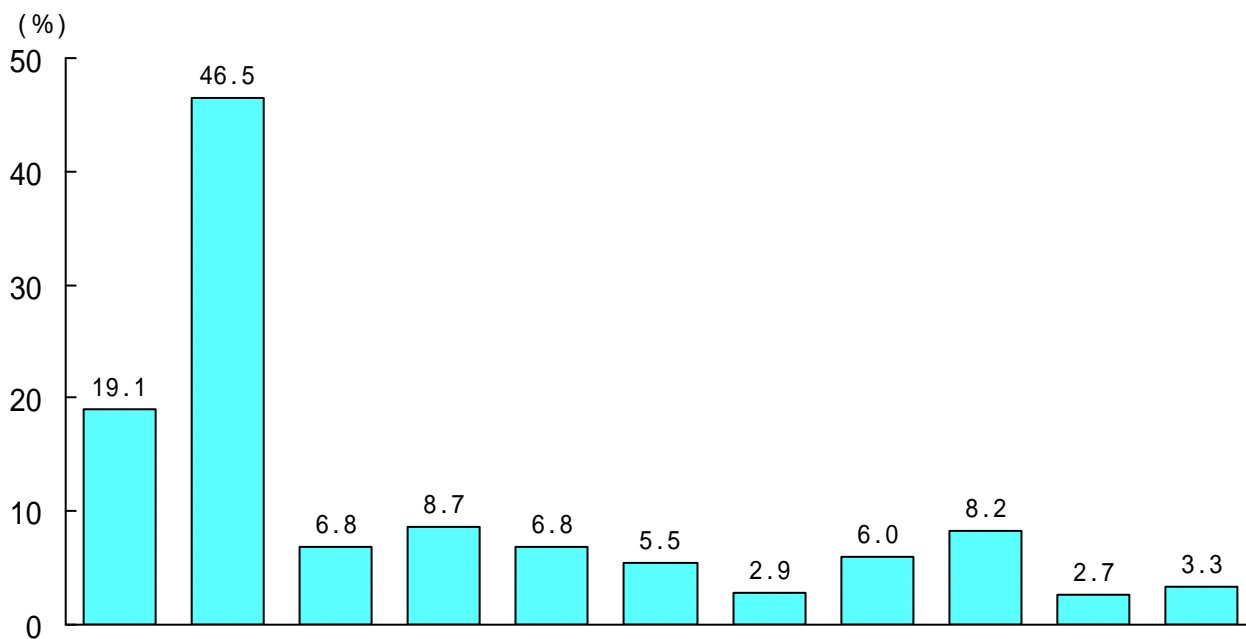


表4 乳用牛飼養者の放牧飼養の状況

区分	飼養戸数	放牧をしている戸数	放牧実施戸数割合	放牧面積	放牧頭数
	戸	戸	%	ha	頭
全国	26 300	5 020	19.1	57 400	245 100
北海道	8 550	3 980	46.5	52 700	222 400
東北	4 240	288	6.8	2 850	7 730
北陸	574	50	8.7	110	970
関東・東山	5 540	377	6.8	350	7 070
東海	1 270	70	5.5	160	1 700
近畿	1 090	32	2.9	X	X
中国	1 290	78	6.0	310	1 210
四国	780	64	8.2	310	1 180
九州	2 830	76	2.7	510	2 120
沖縄	122	4	3.3	10	180

オ 乳用牛飼養者の粗飼料自給割合別飼養戸数の状況

全国の乳用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）の粗飼料自給割合別飼養戸数の分布をみると、「90%以上」の階層が37.9%で最も高くなっている。

これを北海道、都府県別にみると、北海道では、「90%以上」の割合が81.3%を占めており、都府県の17.1%を大きく上回っている。

図5 乳用牛飼養者の粗飼料自給割合別飼養戸数

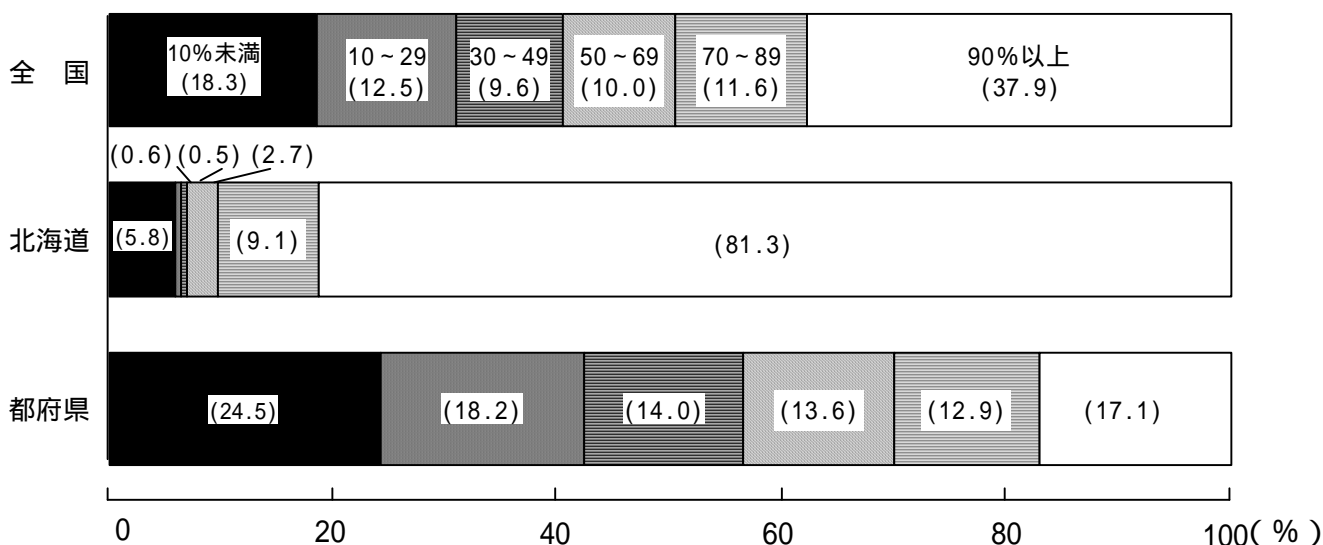


表5 乳用牛飼養者の粗飼料自給割合別飼養戸数

単位：戸

区分		計	10%未満	10~30	30~50	50~70	70~90	90%以上
全国	戸数	26 300	4 820	3 280	2 520	2 640	3 060	9 980
	構成比(%)	100.0	18.3	12.5	9.6	10.0	11.6	37.9
北海道	戸数	8 550	492	51	42	231	780	6 950
	構成比(%)	100.0	5.8	0.6	0.5	2.7	9.1	81.3
都府県	戸数	17 700	4 330	3 230	2 480	2 410	2 280	3 020
	構成比(%)	100.0	24.5	18.2	14.0	13.6	12.9	17.1

(2) 肉用牛

ア 飼養戸数・頭数

平成18年の全国の肉用牛の飼養戸数は8万5,600戸で、前年に比べて4,000戸(4.5%)減少した。

飼養頭数は275万5,000頭で、前年に比べて8,000頭(0.3%)増加した。

この結果、1戸当たりの平均飼養頭数は、前年より1頭増加して32頭となった。

また、肉用牛の種類別飼養頭数をみると、肉用種は170万3,000頭、乳用種は105万2,000頭で、前年に比べてそれぞれ6,000頭(0.4%)、3,000頭(0.3%)増加した。

なお、乳用種のうち、ホルスタイン種他は46万8,200頭で前年に比べて2,500頭(0.5%)減少したが、交雑種は58万3,800頭で、前年に比べて5,300頭(0.9%)増加した。

図6 肉用牛の飼養戸数・頭数の推移

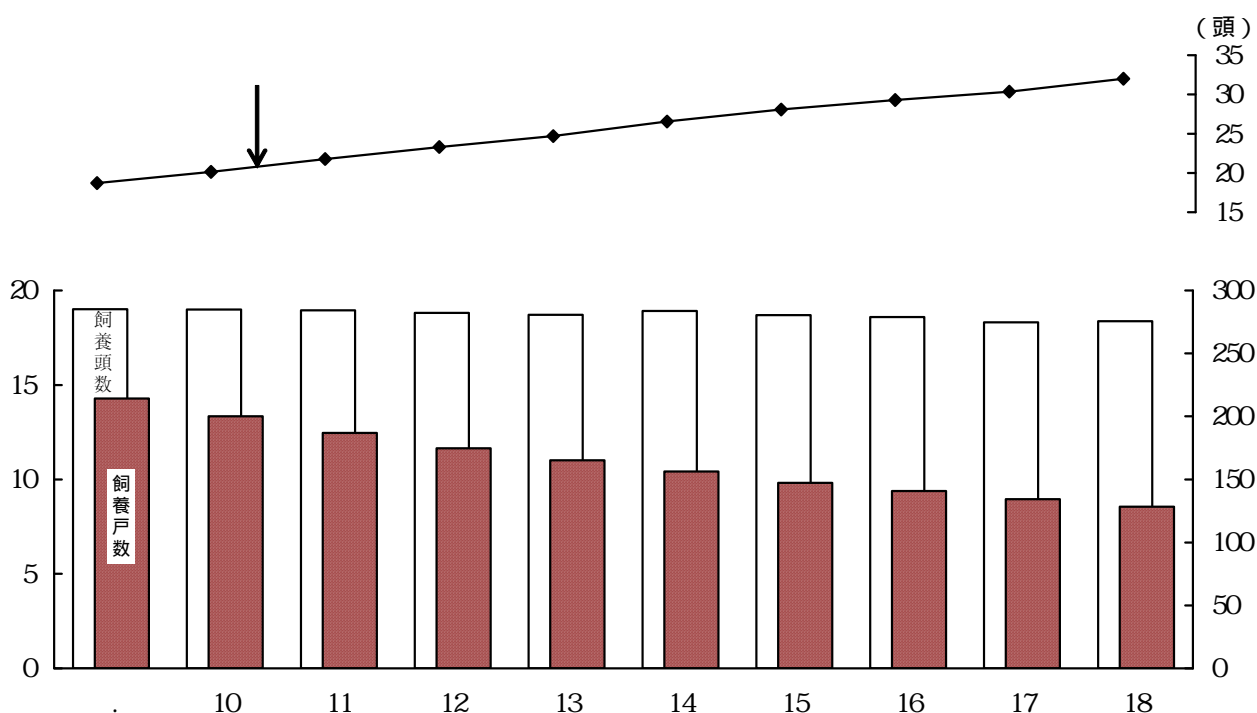


表6 肉用牛の飼養戸数・種類別頭数

区分	飼養戸数	飼 養 頭 数 (千頭)					1戸当たり飼養頭数	
		計	肉用種	乳 用 種				
				小 計	ホルスタイン種他	交雑種		
実数	平.	戸						頭
	16	93 900	2 788.0	1 709.0	1 079.0	470.4	608.7	30
	17	89 600	2 747.0	1 697.0	1 049.0	470.7	578.5	31
	18	85 600	2 755.0	1 703.0	1 052.0	468.2	583.8	32
対前年比 (%)	平.							-
	16	95.7	99.4	100.2	98.0	99.9	96.6	-
	17	95.4	98.5	99.3	97.2	100.1	95.0	-
	18	95.5	100.3	100.4	100.3	99.5	100.9	-
構成比 (%)	平.							-
	16	-	100.0	61.3	38.7	16.9	21.8	-
	17	-	100.0	61.8	38.2	17.1	21.1	-
	18	-	100.0	61.8	38.2	17.0	21.2	-

イ 飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

(ア) 総飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

総飼養頭数規模別にみると、飼養戸数は前年に比べて「50～99頭」の階層で4.9%増加、「100～199頭」の階層で前年並み、それ以外の階層で減少した。

飼養頭数は前年に比べて「50～99頭」の階層で0.5%、「100～199頭」の階層で3.0%、「200頭以上」の階層で1.9%それぞれ増加、「20～29頭」の階層で前年並み、それ以外の階層では減少した。

なお、飼養頭数の半数近くを占めているのは「200頭以上」の階層である。

図7 肉用牛の総飼養頭数規模別飼養戸数・頭数割合

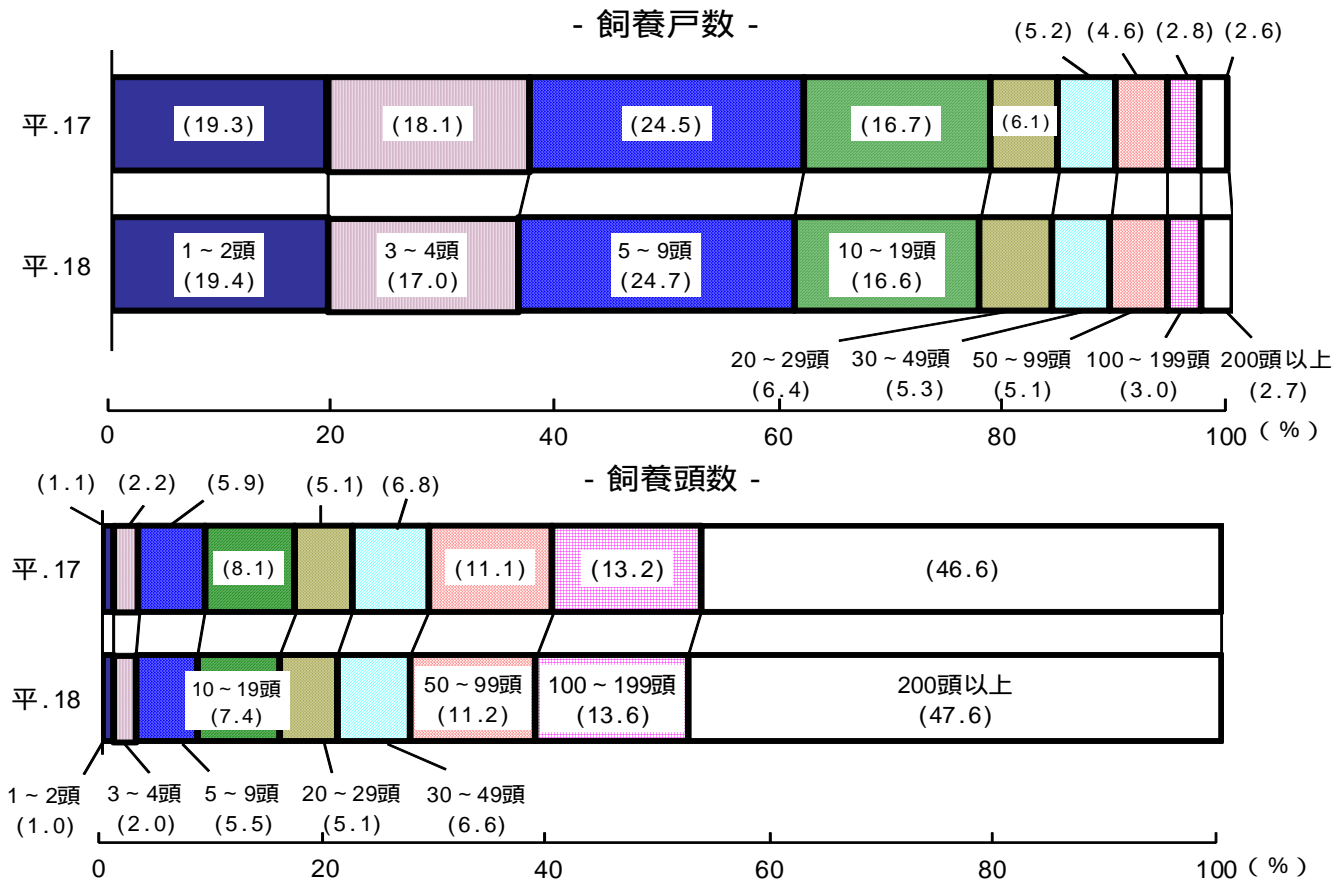


表7 肉用牛の総飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

区分			計	1～2頭	3～4	5～9	10～19	20～29	30～49	50～99	100～199	200頭以上
飼養戸数	実数	平. 17	89 100	17 200	16 100	21 800	14 900	5 440	4 670	4 100	2 520	2 310
		18	85 100	16 500	14 500	21 000	14 100	5 420	4 480	4 300	2 520	2 260
	対前年比	平. 17	95.5	98.3	92.5	97.3	92.0	94.1	98.5	94.3	98.4	96.3
		18	95.5	95.9	90.1	96.3	94.6	99.6	95.9	104.9	100.0	97.8
飼養頭数	実数	平. 17	2 710.0	29.0	59.3	158.8	218.4	138.3	185.4	299.8	357.4	1 263.0
		18	2 701.0	26.9	52.7	147.3	201.2	138.3	178.0	301.3	368.3	1 287.0
	対前年比	平. 17	98.4	101.4	96.7	103.5	99.4	98.8	100.8	95.5	95.9	98.6
		18	99.7	92.8	88.9	92.8	92.1	100.0	96.0	100.5	103.0	101.9

注:この表には学校、試験場等の非営利的な飼養者を含まない。

(イ) 飼養種類別の頭数規模別飼養戸数

a 子取り用めす牛(肉用種)

肉用種の子取り用めす牛を飼養している戸数は7万3,400戸で、肉用牛飼養戸数の86.3%となっている。

飼養頭数規模別にみると、「2頭」、「20~29頭」、「30~49頭」、「50~99頭」及び「100頭以上」の階層は前年に比べて増加し、それ以外の階層では減少した。

表8 子取り用めす牛の飼養頭数規模別飼養戸数

区分		肉用牛の飼養戸数	子取り用めす牛飼養頭数規模										子取り用めす牛なし	
			計	1頭	2	3~4	5~9	10~19	20~29	30~49	50~99	100頭以上		
実数	平.	17	89 100	76 200	13 800	13 800	16 600	17 800	8 700	2 660	1 770	822	265	12 900
	18	85 100	73 400	12 200	13 900	16 000	16 800	8 670	2 690	1 960	905	273	11 700	
対前年比(%)	平.	17	95.5	95.3	100.0	86.3	97.6	96.7	98.6	96.7	88.9	88.4	83.9	97.0
	18	95.5	96.3	88.4	100.7	96.4	94.4	99.7	101.1	110.7	110.1	103.0	90.7	
構成比(%)	平.	17	100.0	85.5	15.5	15.5	18.6	20.0	9.8	3.0	2.0	0.9	0.3	14.5
	18	100.0	86.3	14.3	16.3	18.8	19.7	10.2	3.2	2.3	1.1	0.3	13.7	

単位：戸

b 肥育用牛(肉用種)

肉用種の肥育用牛を飼養している戸数は1万3,100戸で、肉用牛飼養戸数の15.4%となっている。

飼養頭数規模別にみると、「50~99頭」及び「200頭以上」の階層は前年に比べて増加し、「5~9頭」の階層では前年並み、それ以外の階層では減少した。

表9 肥育用牛(肉用種)の飼養頭数規模別飼養戸数

区分		肉用牛の飼養戸数	肥育用牛飼養頭数規模										肥育用牛なし	
			計	1~2頭	3~4	5~9	10~19	20~29	30~49	50~99	100~199	200頭以上		
実数	平.	17	89 100	13 600	2 820	1 340	1 710	1 770	1 300	1 300	1 470	1 140	796	75 400
	18	85 100	13 100	2 670	1 150	1 710	1 640	1 250	1 260	1 580	1 070	811	71 900	
対前年比(%)	平.	17	95.5	100.7	134.9	102.3	96.6	87.2	105.7	87.8	86.5	100.0	100.8	94.5
	18	95.5	96.3	94.7	85.8	100.0	92.7	96.2	96.9	107.5	93.9	101.9	95.4	
構成比(%)	平.	17	100.0	15.3	3.2	1.5	1.9	2.0	1.5	1.5	1.6	1.3	0.9	84.6
	18	100.0	15.4	3.1	1.4	2.0	1.9	1.5	1.5	1.9	1.3	1.0	84.5	

単位：戸

c 乳用種

乳用種を飼養している戸数は7,830戸で、肉用牛飼養戸数の9.2%となっている。

飼養頭数規模別にみると、「1~2頭」、「3~4頭」、「5~9頭」及び「30~49頭」の階層は前年に比べて増加し、それ以外の階層では減少した。

表10 乳用種の飼養頭数規模別飼養戸数

区分		肉用牛の飼養戸数	乳用種飼養頭数規模										乳用種なし	
			計	1~2頭	3~4	5~9	10~19	20~29	30~49	50~99	100~199	200頭以上		
実数	平.	17	89 100	7 910	1 420	609	760	839	462	536	1 000	916	1 360	81 200
	18	85 100	7 830	1 530	775	800	743	424	603	868	857	857	1 240	77 200
対前年比(%)	平.	17	95.5	98.1	145.6	87.0	80.3	94.8	89.0	85.8	103.1	89.8	95.8	95.2
	18	95.5	99.0	107.7	127.3	105.3	88.6	91.8	112.5	86.8	93.6	91.2	95.1	
構成比(%)	平.	17	100.0	8.9	1.6	0.7	0.9	0.9	0.5	0.6	1.1	1.0	1.5	91.1
	18	100.0	9.2	1.8	0.9	0.9	0.9	0.5	0.7	1.0	1.0	1.5	90.7	

単位：戸

ウ 肉用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付面積の状況

全国の肉用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、飼料作物を作付けている戸数は7万1,100戸で肉用牛飼養者の83.5%となっている。

これを農業地域別にみると、九州で91.9%、北海道で89.5%、東北で83.8%の飼養者が飼料作物を作付けている。

図8 肉用牛飼養者の飼料作物作付戸数割合

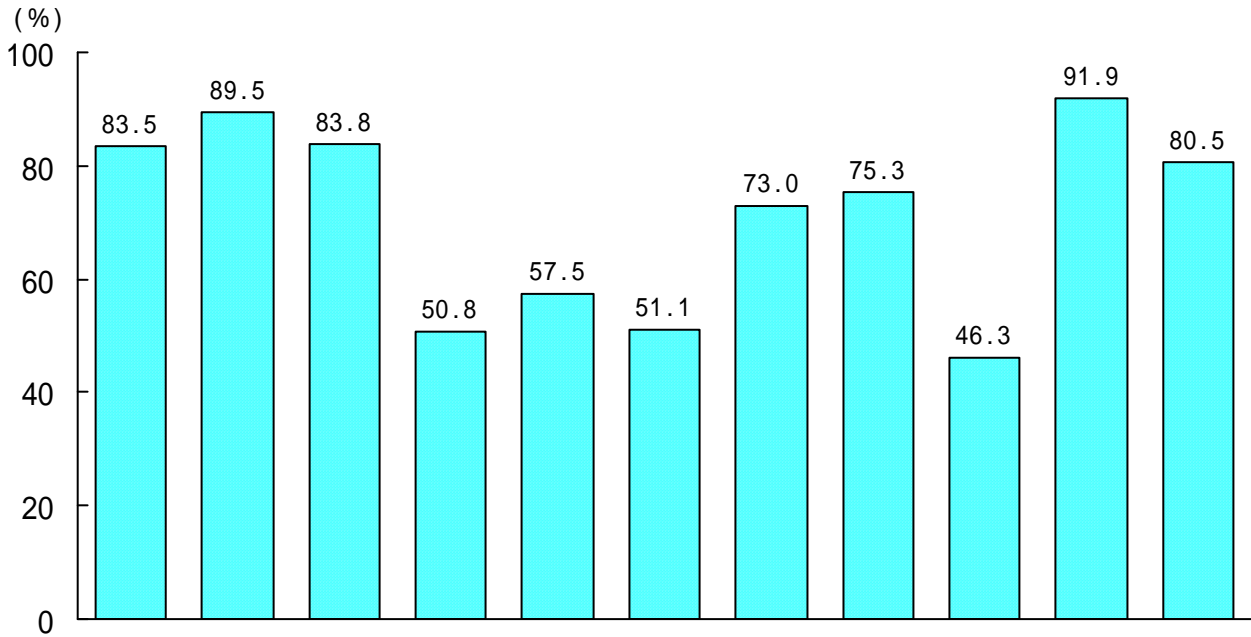


表11 肉用牛飼養者の経営耕地面積・飼料作物作付面積の状況

区 分	飼養戸数	飼料作物作付戸数	飼料作物作付戸数割合	経営耕地面積	飼料作物作付面積
	戸	戸	%	ha	ha
全 国	85 100	71 100	83.5	267 800	175 300
北 海 道	2 870	2 570	89.5	81 600	66 300
東 北	24 000	20 100	83.8	77 800	41 500
北 陸	606	308	50.8	1 800	820
関 東・東 山	5 150	2 960	57.5	11 800	5 970
東 海	1 770	905	51.1	3 200	2 120
近 畿	2 700	1 970	73.0	2 950	1 260
中 国	5 220	3 930	75.3	9 720	4 880
四 国	1 280	593	46.3	1 100	570
九 州	38 300	35 200	91.9	69 100	46 800
沖 縄	3 230	2 600	80.5	8 700	5 110

エ 肉用牛飼養者の放牧飼養の状況

全国の肉用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）のうち、放牧飼養を行った戸数（他に委託して行った放牧を除く。）は6,720戸で肉用牛飼養者の7.9%となっている。

これを全国農業地域別にみると、北海道では46.7%の飼養者が放牧飼養を行っており、他の地域を大きく上回っている。

図9 肉用牛飼養者の放牧実施戸数割合

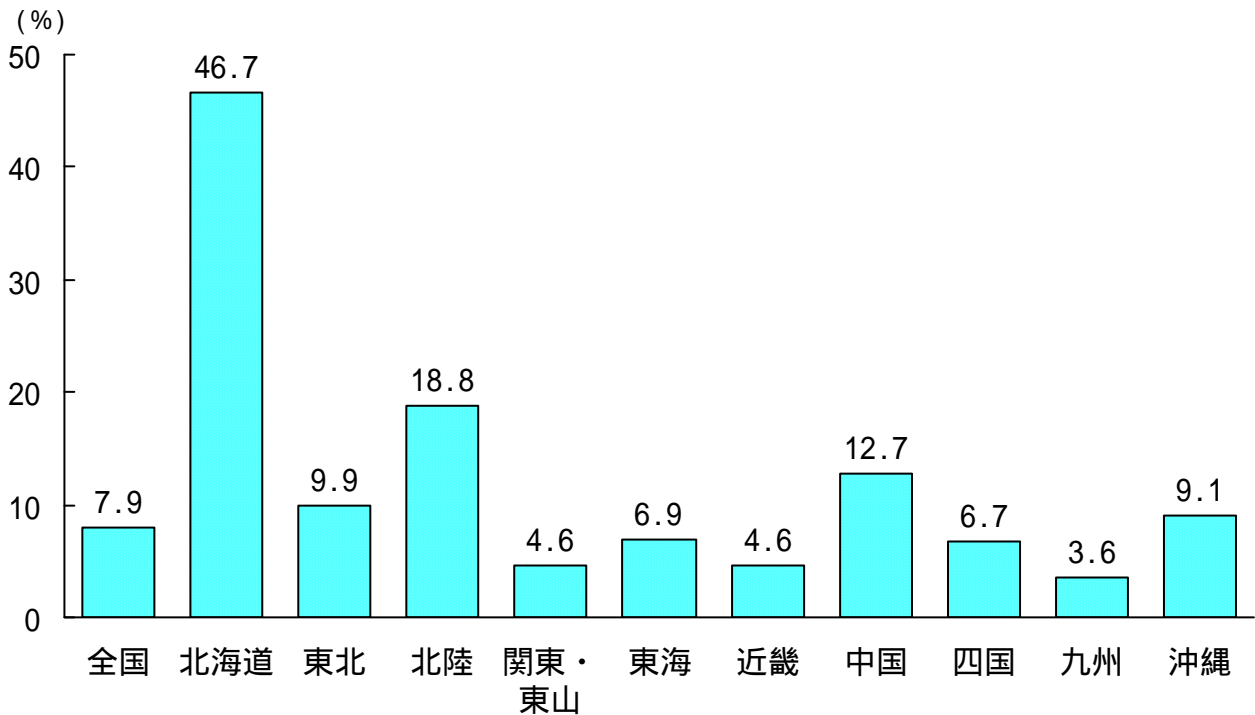


表12 肉用牛飼養者の放牧飼養の状況

区分	飼養戸数	放牧をしている戸数	放牧実施戸数割合	放牧面積	放牧頭数
	戸	戸	%	ha	頭
全国	85 100	6 720	7.9	33 300	116 300
北海道	2 870	1 340	46.7	9 450	59 300
東北	24 000	2 380	9.9	7 340	15 600
北陸	606	114	18.8	90	550
関東・東山	5 150	237	4.6	630	3 690
東海	1 770	123	6.9	1 820	1 520
近畿	2 700	124	4.6	X	X
中国	5 220	662	12.7	1 350	7 790
四国	1 280	86	6.7	360	1 360
九州	38 300	1 370	3.6	10 800	18 100
沖縄	3 230	293	9.1	1 320	6 230

オ 肉用牛飼養者の粗飼料自給割合別飼養戸数の状況

全国の肉用牛飼養者（学校、試験場等の非営利的な飼養者を除く。）の粗飼料自給割合別飼養戸数の分布をみると、粗飼料を90%以上自給している飼養者の階層が51.0%で最も高くなっている。

これを北海道、都府県別にみると、「90%以上」の階層の割合は北海道で63.1%、都府県で50.6%と、いずれも高くなっている。

図10 肉用牛飼養者の粗飼料自給割合別飼養戸数

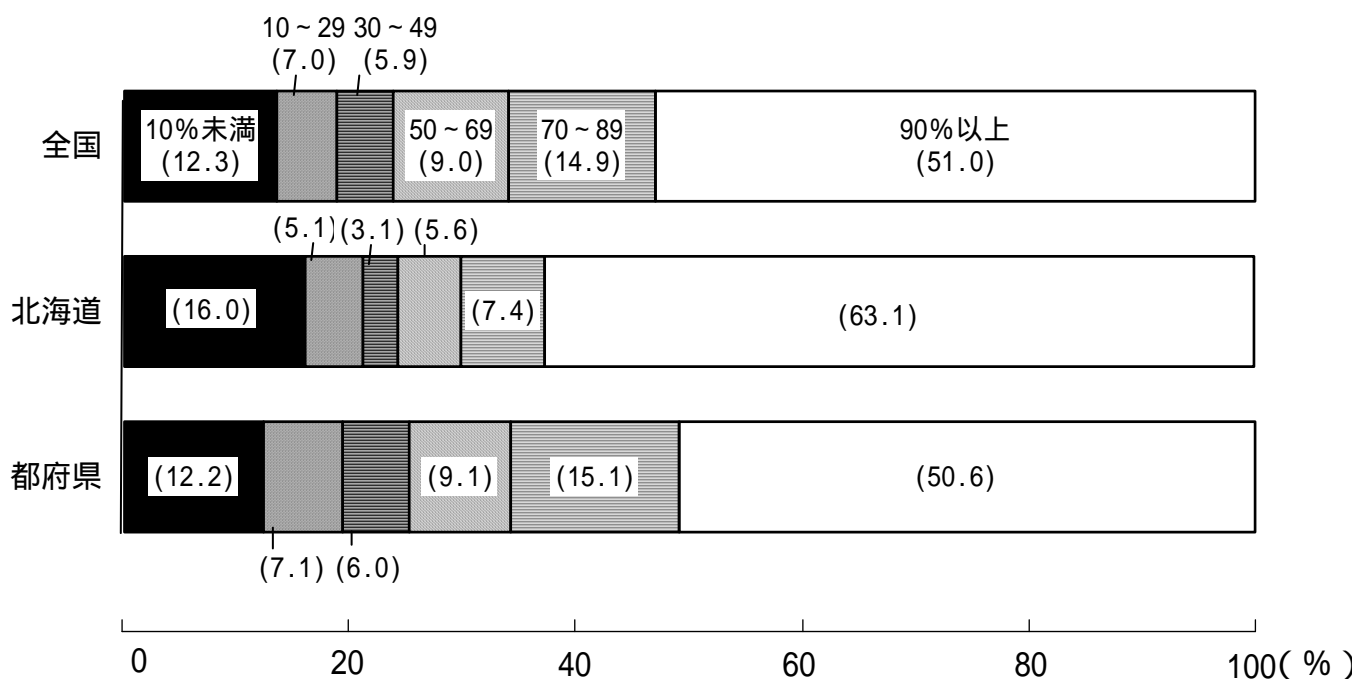


表13 肉用牛飼養者の粗飼料自給割合別飼養戸数

単位：戸

区分		計	10%未満	10~30	30~50	50~70	70~90	90%以上
全国	戸数	85 100	10 500	5 950	4 990	7 660	12 700	43 400
	構成比(%)	100.0	12.3	7.0	5.9	9.0	14.9	51.0
北海道	戸数	2 870	458	146	90	161	211	1 810
	構成比(%)	100.0	16.0	5.1	3.1	5.6	7.4	63.1
都府県	戸数	82 200	10 000	5 800	4 900	7 490	12 400	41 600
	構成比(%)	100.0	12.2	7.1	6.0	9.1	15.1	50.6

(3) 豚

ア 飼養戸数・頭数

平成18年の全国の豚の飼養戸数は7,800戸で、前回（平成16年2月1日現在。以下同じ。）に比べて1,080戸（12.2%）減少した。

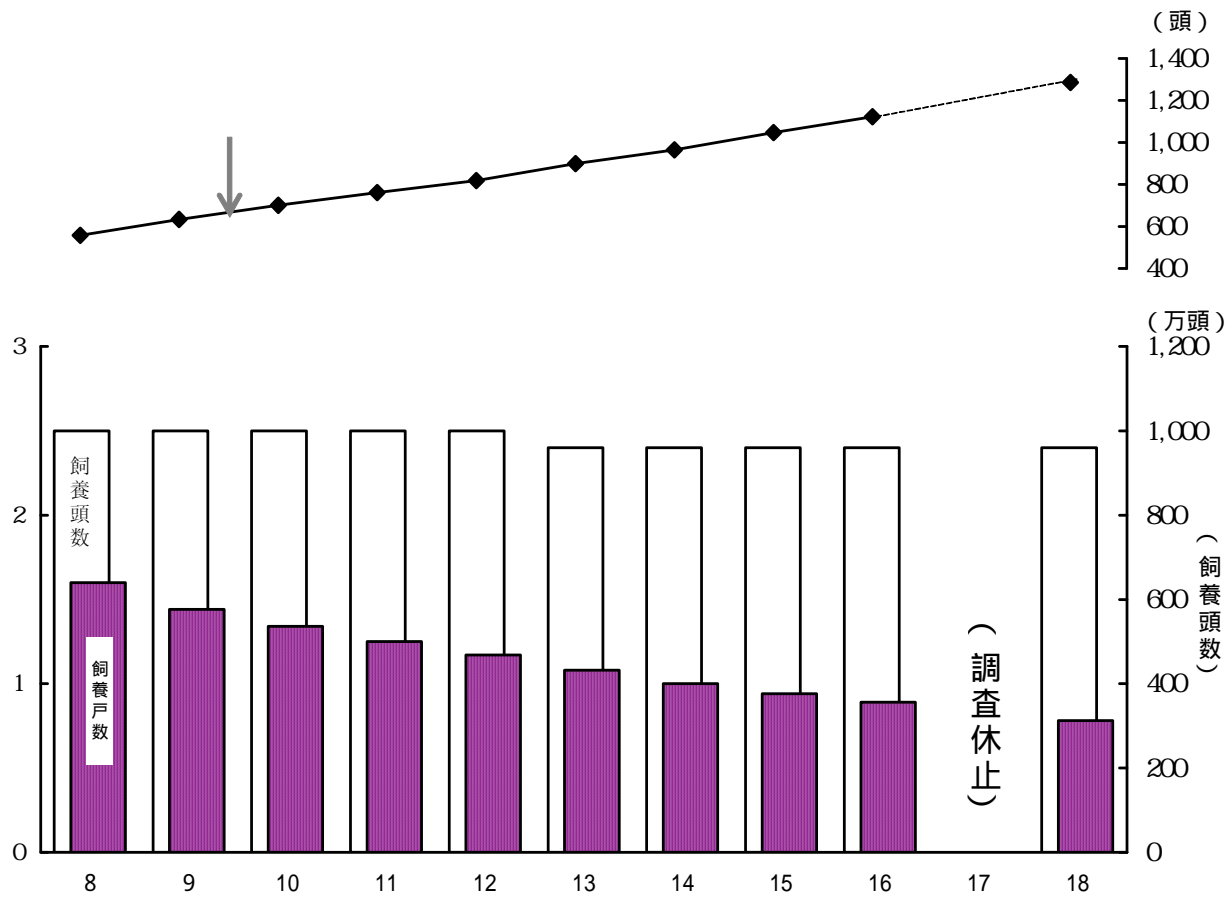
飼養頭数は962万頭で、前回に比べて10万4千頭（対前回は1.1%）減少した。

この結果、1戸当たりの飼養頭数は、前回より138頭増加して1,233頭となった。

また、飼養頭数のうち、子取り用めす豚飼養頭数は90万7,100頭で前回に比べ1万400頭（1.1%）減少した。

なお、1戸当たり子取り用めす豚飼養頭数は、前回より16頭増加して134頭となった。

図11 豚の飼養戸数・頭数の推移



注：平成17年は「2005年農林業センサス」実施年であったことから調査を休止した。

表14 豚の飼養戸数・種類別飼養頭数

区分	飼養戸数		飼養頭数 (千頭)				1戸当たり飼養頭数	子取り用めす豚		
	子取り用めす豚のいる戸数	計	子取り用めす豚	種おす豚	肥育豚	その他				
実数	平 16	8 880	7 770	9 724.0	917.5	63.0	8 052.0	690.9	1 095	118
	18	7 800	6 780	9 620.0	907.1	60.0	7 943.0	710.7	1 233	134
対前回は (%)		87.8	87.3	98.9	98.9	95.2	98.6	102.9	-	-
構成比 (%)	平 16	100.0	87.5	100.0	9.4	0.6	82.8	7.1	-	-
	18	100.0	86.9	123.3	11.6	0.8	101.8	9.1	-	-

イ 飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

飼養戸数を肥育豚飼養頭数規模別にみると、前回に比べて「1,000～1,999頭」の階層で0.9%、「2,000頭以上」の階層で0.8%増加したが、それ以外の階層では減少した。

飼養頭数は前回に比べて「2,000頭以上」の階層で7.0%増加したが、それ以外の階層では減少した。

この結果、戸数では「1,000頭以上」、頭数では「2,000頭以上」の大規模階層の割合が高まっている。

図12 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数・頭数割合の推移

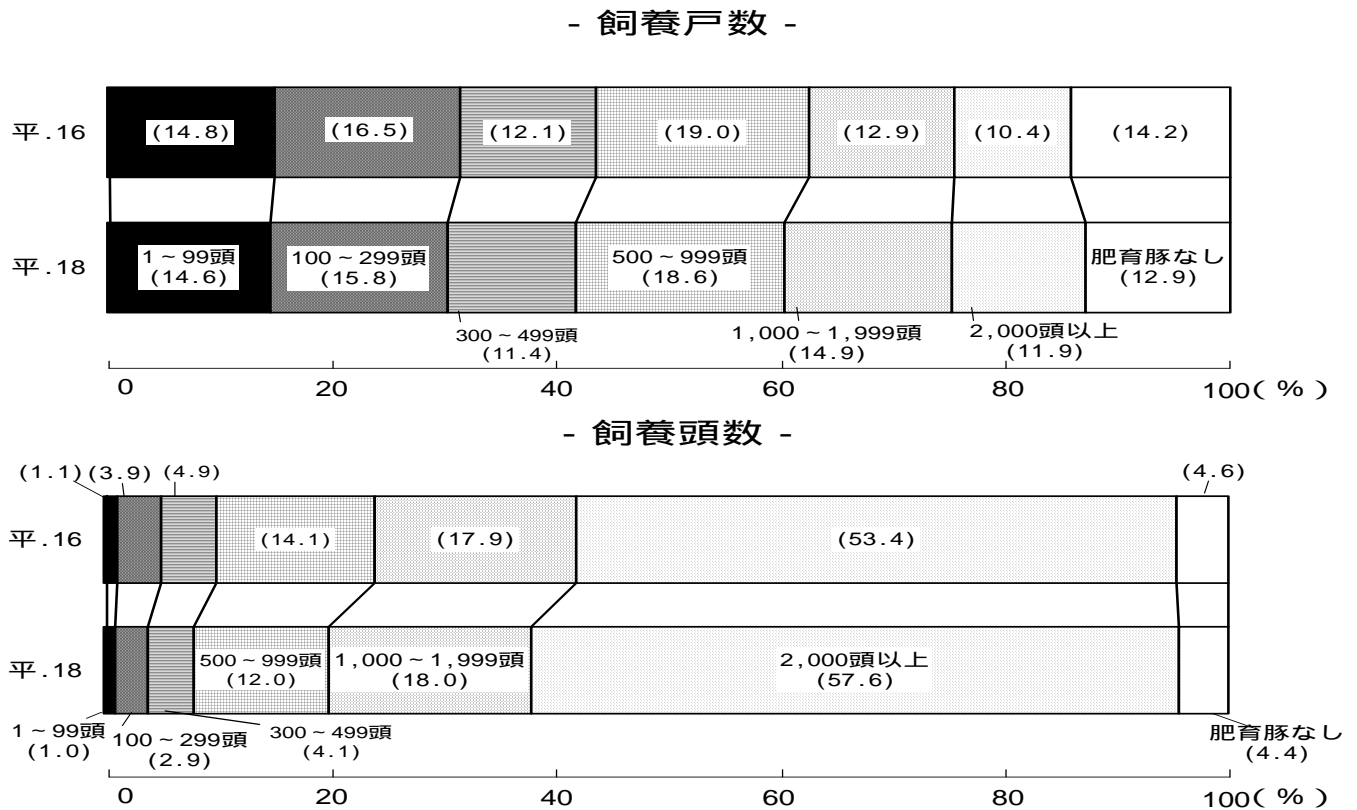


表15 肥育豚飼養頭数規模別飼養戸数・頭数

区分	計	肥育豚飼養頭数規模							肥育豚なし	
		小計	1～99頭	100～299	300～499	500～999	1,000～1,999	2,000頭以上		
実数(戸)	平. 16	8 650	7 420	1 280	1 430	1 050	1 640	1 120	897	1 230
	18	7 600	6 620	1 110	1 200	864	1 410	1 130	904	981
	対前回比(%)	87.9	89.2	86.7	83.9	82.3	86.0	100.9	100.8	79.8
構成(%)	平. 16	100.0	85.8	14.8	16.5	12.1	19.0	12.9	10.4	14.2
	18	100.0	87.1	14.6	15.8	11.4	18.6	14.9	11.9	12.9
	対前回比(%)	100.0	95.4	1.1	3.9	4.9	14.1	17.9	53.4	4.6
実数(千頭)	平. 16	9 639.0	9 197.0	109.5	373.9	476.2	1 363.0	1 722.0	5 152.0	442.1
	18	9 570.0	9 149.0	97.6	277.1	391.0	1 151.0	1 720.0	5 512.0	421.5
	対前回比(%)	99.3	99.5	89.1	74.1	82.1	84.4	99.9	107.0	95.3
構成(%)	平. 16	100.0	95.4	1.1	3.9	4.9	14.1	17.9	53.4	4.6
	18	100.0	95.6	1.0	2.9	4.1	12.0	18.0	57.6	4.4
	対前回比(%)	100.0	95.6	1.0	2.9	4.1	12.0	18.0	57.6	4.4

(4) 採卵鶏

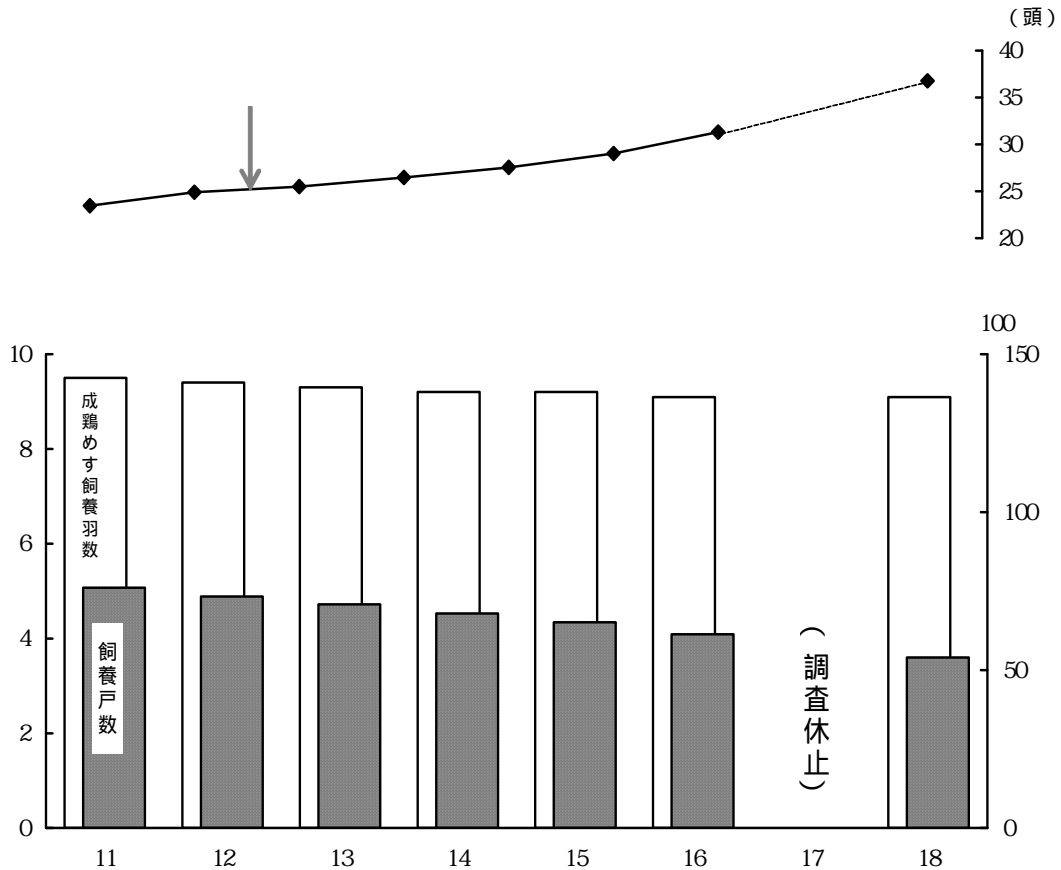
ア 飼養戸数・羽数

平成18年の全国の採卵鶏の飼養戸数（種鶏のみの飼養者及び成鶏めす羽数1千羽未満の飼養者を除く。以下同じ）は3,600戸で、前回（平成16年2月1日現在。以下同じ。）に比べて490戸（12.0%）減少した。

成鶏めすの飼養羽数は1億3,689万4千羽で、前回並みとなった。

この結果、1戸当たりの成鶏めす飼養羽数は、前回に比べ4.5千羽増加し38千羽となった。

図13 採卵鶏の飼養戸数・羽数の推移



注：平成17年は「2005年農林業センサス」実施年であったことから調査を休止した。

表16 採卵鶏の飼養戸数・羽数

区分	採卵鶏の飼養戸数	飼養羽数（千羽）			1戸当たり成鶏めす飼養羽数	
		計	採卵鶏（種鶏を除く）	成鶏めす（6か月以上）		
	戸				千羽	
実数	平. 16	4 090	178 755	174 550	137 216	33.5
	18	3 600	180 697	176 955	136 894	38.0
対前回比(%)		88.0	101.1	101.4	99.8	-
構成比(%)	平. 16	-	100.0	97.6	76.8	-
	18	-	100.0	97.9	75.8	-

イ 採卵鶏の成鶏めす羽数規模別飼養戸数・羽数

飼養戸数を成鶏めす羽数規模別にみると、「10万羽以上」の階層で前回に比べ1.1%増加したが、それ以外の階層では減少した。

飼養羽数は、「10万羽以上」の階層で10.6%増加したが、それ以外の階層では減少した。

この結果、「10万羽以上」の階層で飼養羽数が増加しており、大規模階層の割合が高まっている。

図14 採卵鶏の成鶏めす羽数規模別飼養戸数・成鶏めす羽数割合の推移

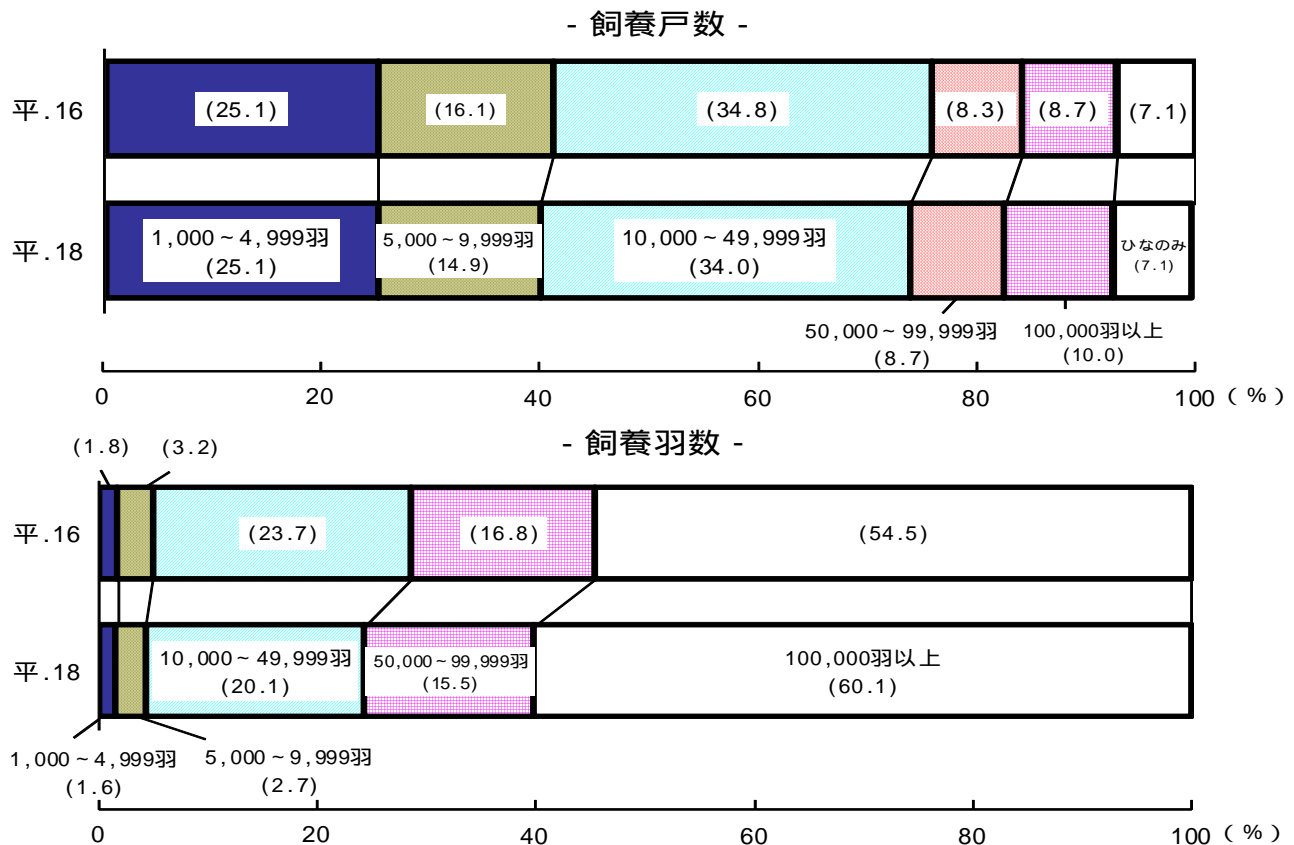


表17 採卵鶏の成鶏めす羽数規模別飼養戸数・成鶏めす羽数割合の推移

区分	計	成鶏めす羽数規模					ひなのみ		
		1000 ~ 4,999	5,000 ~ 9,999	10,000 ~ 49,999	50,000 ~ 99,999	100,000羽以上			
飼養戸数	実数(戸)	平. 16	4 020	1 010	646	1 400	333	348	287
		18	3 530	886	526	1 200	308	352	250
	対前回比(%)		87.8	87.7	81.4	85.7	92.5	101.1	87.1
	構成(%)	平. 16	100.0	25.1	16.1	34.8	8.3	8.7	7.1
	18	100.0	25.1	14.9	34.0	8.7	10.0	7.1	
飼養羽数	実数(千羽)	平. 16	136 538	2 424	4 424	32 378	22 953	74 359	-
		18	136 772	2 132	3 674	27 453	21 253	82 260	-
	対前回比(%)		100.2	88.0	83.0	84.8	92.6	110.6	-
	構成(%)	平. 16	100.0	1.8	3.2	23.7	16.8	54.5	-
	18	100.0	1.6	2.7	20.1	15.5	60.1	-	

注:この表には学校、試験場等の非営利的な飼養者を含まない。

(5) 鶏ひなふ化羽数

ア ふ化羽数及び出荷羽数

(ア) 採卵用めすひな

平成17年(1月～12月)の全国の採卵用めすひなのふ化羽数は1億1,598万9千羽、出荷羽数は1億980万1千羽で、前年に比べてそれぞれ4.4%、4.6%増加した。

これは、前年に国内で発生した高病原性鳥インフルエンザの影響及び鶏卵価格の低迷によりひな導入を控えたためである。

(イ) プロイラー用ひな

平成17年(1月～12月)の全国のプロイラー用ひなのふ化羽数は6億7,099万9千羽、出荷羽数は6億5,493万2千羽で、前年に比べてそれぞれ3.6%、3.9%増加した。

これは、国産鶏肉の需要が高まったためである。

図15 出荷羽数の推移(全国)

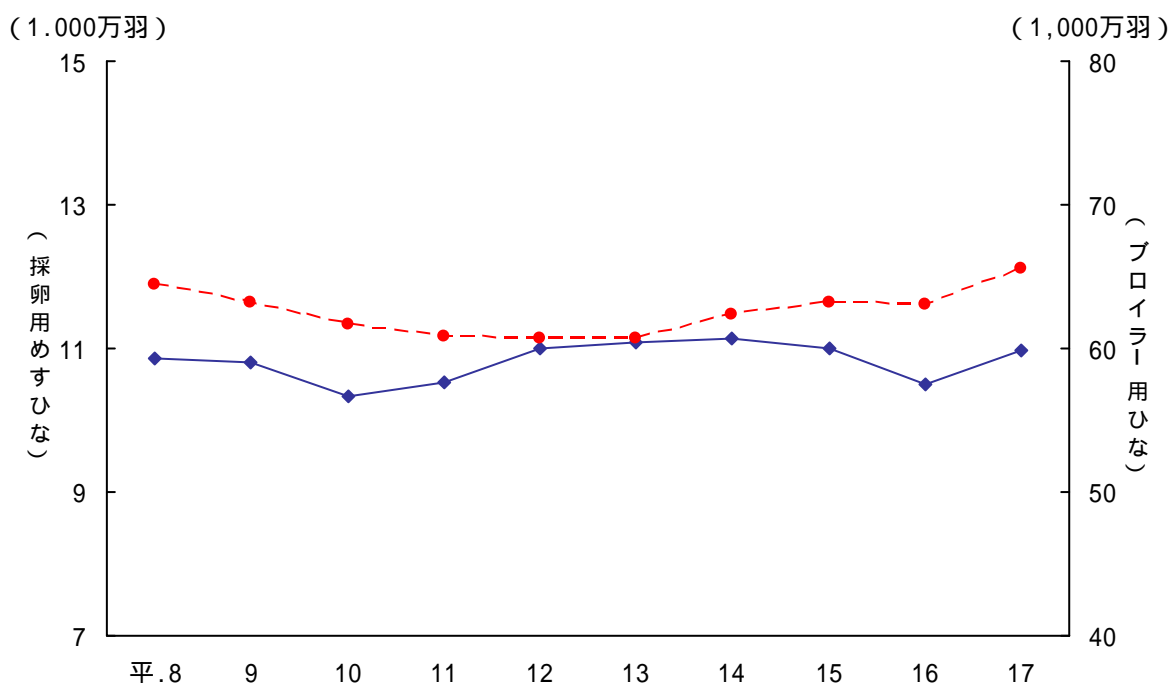


表18 ふ化羽数及び出荷羽数

単位：千羽

区分		採卵用めすひな		プロイラー用ひな	
		ふ化羽数	出荷羽数	ふ化羽数	出荷羽数
実数	平. 16	111 114	104 992	647 852	630 121
	17	115 989	109 801	670 999	654 932
対前年比 (%)	平. 16	95.7	95.4	100.0	99.8
	17	104.4	104.6	103.6	103.9

イ 全国農業地域別え付け羽数

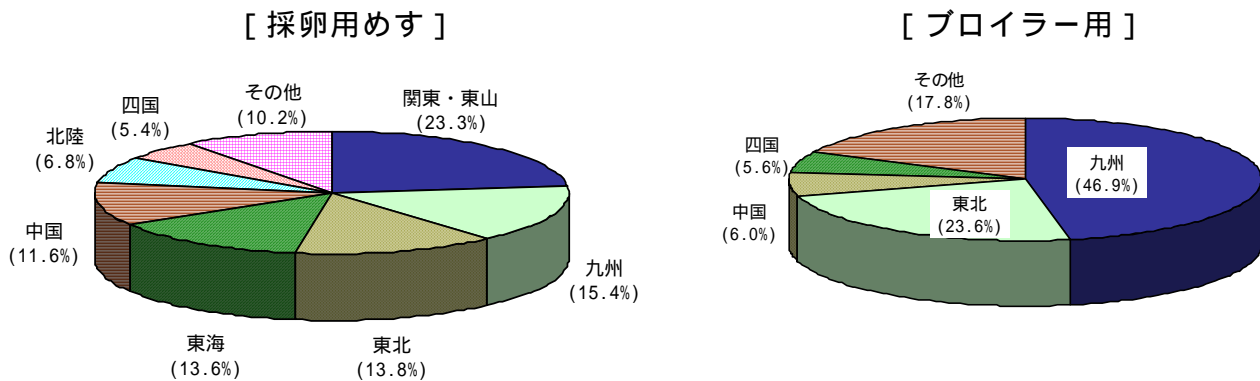
(ア) 採卵用めすひな

採卵用めすひなのえ付け羽数を農業地域別にみると、関東・東山、四国ではそれぞれ2.6%、0.8%減少したが、それ以外の地域では前年並み若しくは増加した。

(イ) ブロイラー用ひな

ブロイラー用ひなのえ付け羽数を農業地域別にみると、関東・東山では0.3%減少したが、それ以外の地域では増加した。

図16 全国農業地域別え付け羽数の割合



注) え付け羽数の全国割合が5.0%未満の地域については「その他」とした。

表19 全国農業地域別え付け羽数の割合

単位：千羽

区分		全国	北海道	東北	北陸	関東・東山	東海	近畿	中国	四国	九州	沖縄	
採卵用めすひな	実数	平.16年	104 992	4 870	13 526	6 449	26 242	13 878	4 198	12 628	5 960	16 385	856
		17	109 801	4 914	15 119	7 465	25 569	14 906	5 321	12 694	5 911	16 954	948
	対前年比 (%)	平.16年	95.4	98.6	97.9	91.6	95.7	95.2	67.2	116.3	92.7	91.9	90.5
		17	104.6	100.9	111.8	115.8	97.4	107.4	126.8	100.5	99.2	103.5	110.7
ブロイラー用ひな	実数	平.16年	630 121	27 919	147 841	5 786	31 307	22 147	23 439	38 696	36 073	293 806	3 107
		17	654 932	28 652	154 798	5 967	31 226	22 522	24 877	39 581	36 849	307 216	3 244
	対前年比 (%)	平.16年	99.8	105.9	98.6	90.7	96.0	96.0	91.7	98.4	98.2	101.8	101.3
		17	103.9	102.6	104.7	103.1	99.7	101.7	106.1	102.3	102.2	104.6	104.4
構成比 (%)	平.16年	100.0	4.6	12.9	6.1	25.0	13.2	4.0	12.0	5.7	15.6	0.8	
	17	100.0	4.5	13.8	6.8	23.3	13.6	4.8	11.6	5.4	15.4	0.9	
	平.16年	100.0	4.4	23.5	0.9	5.0	3.5	3.7	6.1	5.7	46.6	0.5	
	17	100.0	4.4	23.6	0.9	4.8	3.4	3.8	6.0	5.6	46.9	0.5	